

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成23年1月20日(2011.1.20)

【公開番号】特開2010-23381(P2010-23381A)

【公開日】平成22年2月4日(2010.2.4)

【年通号数】公開・登録公報2010-005

【出願番号】特願2008-189280(P2008-189280)

【国際特許分類】

B 4 1 J 2/165 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 3/04 1 0 2 H

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月1日(2010.12.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

振動源取付け軸とオリフィスの間に形成されたインク室が備えられているノズルから噴出されたインク粒子に文字信号を帯電させる帯電電極と帯電されたインク粒子を偏向させるための偏向電極により文字の形成を行ない、文字形成に用いられないインク粒子は、ガターに捕らえられ、本体に戻され再利用される連続型のインクジェット記録装置において、前記インク室に流体拡散板が配置されていることを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項 2】

請求項1に記載のインクジェット記録装置において、前記流体拡散板は中央部には遮へい部が備えられているとともに、外縁部付近には開口部が形成されていることを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項 3】

請求項1に記載のインクジェット記録装置において、前記流体拡散板は網目状に開口部が形成されていることを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のインクジェット記録装置において、前記流体拡散板は樹脂、或いは金属で形成されていることを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項 5】

請求項1に記載のインクジェット記録装置において、前記流体拡散板は一樣な厚みで、前記インク室を囲んでいる振動板部と前記オリフィス端面部のシール部以外は凹部状であることを特徴とするインクジェット記録装置

【請求項 6】

振動源取付け軸とオリフィスが備えられているノズルから噴出されたインク粒子に文字信号を帯電させる帯電電極と帯電されたインク粒子を偏向させるための偏向電極により文字の形成を行ない、文字形成に用いられないインク粒子は、ガターに捕らえられ、本体に戻され再利用される連続型のインクジェット記録装置において、

前記振動源取付け軸には、インクを流すための振動源取付け軸流路が形成され、前記オリフィスには、前記振動源取付け流路から流れてくるインクを流すためのオリフィス流路が形成され、前記オリフィス経路の径は前記振動源取付け軸流路の径と同径ではないと

ともに、前記振動源取り付け軸と前記オリフィスの間には、前記振動源取り付け軸流路と前記オリフィス流路に対応するようにインク室が形成され、前記インク室には流体拡散板が備えられていることを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項 7】

請求項6に記載のインクジェット記録装置において、前記シール板は凸形で中央部に開口部が形成されているとともに、内径側でシールすることを特徴としたインクジェット記録装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記の目的を達成するために、例えば、振動源取り付け軸とオリフィスの間に形成されたインク室が備えられているノズルから噴出されたインク粒子に文字信号を帯電させる帯電電極と帯電されたインク粒子を偏向させるための偏向電極により文字の形成を行ない、文字形成に用いられないインク粒子は、ガターに捕らえられ、本体に戻され再利用される連続型のインクジェット記録装置において、前記インク室に流体拡散板が配置されているとの構成をとる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

図9～図12の実施例においても、インク室内を攪拌させるインク流れ31が形成され、少量の補力液でノズル8のインク室30内の隅々まで洗浄でき、インク室によどみが生じないようにになっている。